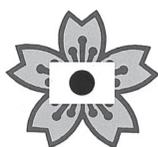


国防は最大の  
福祉である  
初代会長 高橋季義



# 國の支え

中井信夫元大阪府議会議長

関西防衛を支える会  
(略称・関防会)  
〒542-0081  
大阪市中央区南船場3-11-10  
心齋橋大陽ビル7階  
TEL 06-6241-1124  
発行人 濱野晃吉  
編集人 新川貞敏  
印刷所 (株)新聞印刷

第72号  
(秋季号)  
平成29年10月1日(日)  
(皇紀2677年)  
(大正紀元106年)  
(昭和紀元92年)

## トランプ大統領の就任と日米関係の行方



関防歴史勉強会  
中島サロン 第67回  
6月10日

の戦後体制はよくここまで(70年以上)持ったなあとも見ることが出来ます。  
永続しない覇権国

神戸大学大学院教授  
袁原 俊洋氏

只今ご紹介頂きました袁原です。  
日本は一極集中過ぎますね。我が国ほど成熟した国家は、中心を分散させないといけないと思えます。ドイツも、アメリカも全を一つの都市に集中させていません。にもかかわらず、日本はずべて東京に集中しているのが私の持論です。

### シャングリラ対話での傲慢な中国軍人

前置きはここまでにして、本題に入りましょう。今国際政治はトランプ大統領の就任によって、もともと中国の台頭によって不安定な状態がある中で、今度はさらに不透明感が増してきたように思います。

私は去る月曜日(6月5日)まで、シンガポールにいたのですが、シャングリラ対話(アジア安全保障会議)に参加してきました。これはISSというシンクタンクが主催者なんですが、この招待で行って来ました。当然中国の代表、東南アジア各国の代表、日豪仏の防衛大臣、そしてアメリカのマティス国防長官も出席していて、私も各セッションに出席しました。今回の会議において中国を除いてみんなが最も考えたのは、トランプのアメリカを今後も本当に頼れるかとの一点にありました。

今回の基調講演者はオーストラリアの首相でしたが、その晩餐会で私の横に座ったのは中国海軍の上級大佐でした。すごく傲慢な方で、中国の時代がいつにやってくるか、



袁原教授を囲む参加者

京の一極集中で、この状況は安全保障の観点から考えると、たとえば首都東京への攻撃、或いは自然災害によって首都機能が消滅した場合、すべてが東京とかなりマズイと思つたのです。これは強靱な国家を作る上では極めて良くないと思つた。そのために、関西が第2の首都圏として存在し、万が一の場合に備えて首都として機能できるように整備されていかなければならないというのが私の持論です。

### 講演録要旨

たという態度を露わにし、すでに中国の勝ちだと豪語してしまつた。ただ、中国をアジアの覇権国にさせるために邪魔している国が一つあり、それがアメリカだとも述べ、さらには日米同盟を壊さなければ、日本は容易に屈服すると断言してしまつた。昔の遣隋使や遣唐使のように日本は必ず中国にお伺いを立てなければならぬ時代がやってくる...

### 動乱期を迎えつつある世界

物事をロングタイムで考察し、かつ世界史の中に現在の国際政治を位置付けると、羅針盤のようにある程度今の世界の方向性が見えてくると思つた。つまり、その羅針盤とは我々が過去にたどった道なのです。歴史というものは全く同じ形で繰り返されることはありませんが、傾向とかパターンは必ず存在します。そのため、過去を見ることによって、ある程度先を見通せるわけです。

では、100年前の1917年(大正6年)はどうだったのか。1917年は、まずロシア革命の年です。今と同じように、国際政治が大きく動き出した動乱期です。さらに大きなイベントが第一次世界大戦です。1917年のアメリカの参戦によって膠着状態だった戦争は一気に協商国側に有利になった。さらに、1917年はアメリカのGDPがイギリスを超える年でもあります。因みに、一人当たりGDPでアメリカがイギリスを抜くのは19世紀末です。つまり、約20年以上をかけてようやく総GDPでイギリスを超えるんです。このように、1917年はちょうど世界のトップが交代した時期でもありました。

こうした覇権交代期は国際政治が不安定になり、紛争が生じやすくなります。だだけど、英米は価値観を共有していたため、両者は対峙せず、共に手を取り合つて英米による世界秩序を構築します。近衛文麿は「英米本位の平和主義を排す」と言う論文を書いていますが、正しくこの二か国が世界のリーダーの役割を果たしてしまつた。しかし、第二次大戦後の1945(昭和20年)に戦争で疲弊したイギリスが脱落し、戦後秩序はもっぱらアメリカが作り出した。その出現した新たな世界秩序において、日本は経済大国への道が切り拓かれました。この時代を「バックス・アメリカナ」と呼びます。それが、2017年になって少しずつではありますが、アメリカ主導の体制に綻びがはじめています。むしろ、アメリカ

中国の台頭ですが、力を付けたことによって世界に対して新たな選択肢を提示できるようになりました。冷戦後の時代は、余りの余地はありませんでした。今後はアメリカが提示する枠組みだけではなく、中国が構築した枠組みも選択可能となります。くわえて、現状変更も果敢に行っています。その一つが南沙諸島です。こちらはハッキリ言って、もう勝負ありです。何もなかったところに島ができてしまったわけですから、それゆえ現状は変更され、武力行使以外の方法をもって中国を南沙から撤退させるのはほぼ不可能です。あとロシアのクリミアへの侵略も同様に現状変更です。侵略して一方的に国境線を奪取したわけでは、日本はそれを看過できません。中国が尖閣を奪取したら、日本は

### 関防会の歴史勉強会 中島サロンのご案内

関防会担当 菊池哲也 070-6923-5866

第69回 日時 平成29年10月21日(土曜日) 午後4時から  
講師 岡田邦宏氏(日本政策研究センター所長) 月刊誌『明日への選択』編集長  
昭和27年和歌山市生まれ、京都大学工学部卒  
演題 日本の針路と憲法の課題  
参加費 5000円(含む飲食代)  
学生 2000円(含む飲食代)

第70回 日時 平成29年12月2日(土曜日) 午後4時から  
講師 一色正春氏(元海上保安官) 昭和42年生まれ、Sengoku38のハンドルネームで、中国漁船が海保の巡視船にぶつかる映像を流した。当時の民主党政権が隠蔽したため義憤に駆られて。  
演題 領土領海を守るために  
参加費 6000円(兼忘年会)  
学生 2000円

会場 錦城閣 ☎06-6941-2185 地下鉄谷町線、京阪電車天満橋駅直上  
キャッスルホテル3F(中国料理店)

永遠の国家はあり得ない

(一面から続き)

数年前に中国が一路を打ち出した時に私は、これ... 大東亜共栄圏が見本です。こうして日本近代史に...

歴史というのは流れがあり、川のように常に変化して... アメリカという国家も、一世紀以上先かもし...

「ツキデデスの罠」：米中対立は不可避か... アメリカの覇権は、いつか必ず終わります。これは不...

変容するアメリカ外交

民主主義を守るという話ですが、関西とも関係ありま... 最近とても悲しいのは私が居住する兵庫県の記事が...

と声高に求めていくのではないのでしょうか。さて、変容するアメリカ外交の本論に戻りましょう。

アメリカ外交は二世紀でかなり様変わりしました。アメリカが世界のパワーになるんだと明白な自覚を...

「ツキデデスの罠」：米中対立は不可避か

アメリカの覇権は、いつか必ず終わります。これは不... 70年以上もアメリカの覇権は続きましたが、...

そうした中において、いま考えなければいけないのが... 私の尊敬するハーバード大学のアリソン教授が提唱する...

ば、現実的な紛争回避法は次の二つに集約されます。まずは第三のG2構想。昔スペインとポルトガルが...

最後に、第4がツキデデスの罠にかかることです。つまり、戦争による解決です。ただ、両国は核保有国で...

私が思うに、アジアはすでにツキデデスの罠の初期段階、すなわち覇権挑戦期に突入しています。アジアを見...

日本も例外ではありません。米日関係は冷戦後において最悪の関係になっていますが、それでも安倍総理は...

中国に対する防波堤と日米関係... 中国に対する防波堤は存在しないのか。シャングリラ...

中国は自国に与えられている現状変更の時間には有限なことを熟知しています。日本よりもベースの早い少子高齢化もそうですが、一人っ子政策...

我が国は大国としての意識を持って... アメリカが自国の防衛だけに専念する国になった場合...

「勢力圏構築を急ぐ中国」... 「一带一路」は中国の大きい経済力がバックにあり、全道の道が北京に繋がるようにすること、すなわち中...

中長期的な立場から見ると、これは問題の除去、すなわち癌の切除が唯一の現実的な選択ではないかと思うの...

最後に、日米関係について話をします。トランプ個人の好物はハンバーカーとポテトフライです。さらに、彼の女性の趣味を見てください。身長180cm前後の金髪と青...

話が多岐に及びましたが、長時間のご清聴ありがとうございました。ごさいました。

話が多岐に及びましたが、長時間のご清聴ありがとうございました。ごさいました。

# 関防歴史勉強会

## 中島サロンの第68回

8月19日

時々拝見する『國の支え』などを通して関防会の皆様  
の活躍は存じておりますが、お話しさせて戴くのは今回が  
初めてです。これを機会に皆様と協力・連携を進めてい  
きたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いしま  
す。

皆様は防衛・軍事問題には詳しい方ばかりですので、  
釈迦に説法にならないように、いつもの国防問題の話題  
とは違って、戦争の形態は常に変わる、特にポスト冷戦  
の戦争とはどういふものかという、いわば私の戦争論  
をお話させて戴きます。非対称型と言っても戦争に付随  
する部分的ないし周辺的問題の重要性ではなく、戦争そ  
のものの非対称化について議論を進めさせて戴きます。  
戦争の非対称化——と言っても何のことかちょっと解り  
にくいと思いますが、順にお話させて戴きますので、多  
少とも皆様の参考にして戴ければと思います。

### 近代の戦争論

最初に近代の戦争の形態の変遷についてお話しします。  
そのために近代の戦争論として著者なものを幾つかあげ  
てコメントをしたいと思います。誰でも真っ先に思い浮  
かぶのは、何となくともクラウゼヴィッツの『戦争論』(原  
著は一八三二年)ですが、「戦争とは他の手段をもって  
する政治の継続である」という提言は常に繰り返されて  
います。しかし、これは喧伝されるほど普遍的なもの  
ではなく、あくまで西欧近代の、歴史的にいえばウエスト  
フアリア条約からウィーン条約まで、そしてその後のア  
ンシャン・レゾームの、近代西欧の矛盾を先延ばしに  
していた一九世紀の、西欧におけるバランス・オブ・パワ  
ーが機能していた時代の考えであって、決して普遍的な  
ものではないというのが私の考えです。第一次世界大戦  
が既にこのクラウゼヴィッツの提言を越えています。

一九一四(大正三年)に第一次世界大戦が始まったとき  
西欧の知識人はその年のクリスマスには戦争は終って  
いるだろうと漠然と考えておりました。しかし延々と戦争  
は続き、戦争目的のものも不明明になってしまいました。  
後に総力戦といわれるものの端緒ですが、明かに戦  
争の形態はここで変った訳です。総力戦の代表作はルー  
デンドルフの『総力戦』(原著は一九三五年)に纏めら  
れていますが、これはあくまで後にそのように纏められ  
たものであって、総力戦という考えは第一次世界大戦後  
に既に認識されておりました。

もう一つ我々海洋文明側には重要なマッキンダーの地  
政学に触れておく必要があります(マッキンダーの名著  
は『デモクラシーの理想と現実』一九一九年)。海洋国  
家と大陸国家の相克を海洋側からどのような戦略をたて  
るべきかを主張した、文明論としても重要な観点です。

但し、彼の考えにも時代の制約はあって、大陸国家の危  
険性について彼はそれをユーラシア大陸に導入された  
た鉄道の過大評価から出発しています。どういふことか  
と言いますと、近代文明はあくまで海洋文明であって、  
それに対して大陸文明は常に適応異常を来してきたとい  
うことです。近代文明が海洋文明であることは、むしろ  
第二次大戦の戦後の日本がアジア太平洋の時代を切り開  
いてきたことによつて後追いの証明が可能だと考えてお  
ります(日本の戦後の高度成長がそのような文明的役割  
を果してきたことに日本自身が気づいていないのは、  
唯々残念としか言ひようがありません)。同じ海洋国家  
のアメリカがどう進むべきかについて論じた古典的著述  
にマハンの『海上権力史論』(原著は一九〇〇年)があ  
りますが、今回はスキップします。

### 原田統吉氏の戦争論

いずれも二十世紀前半に重  
要だった戦争論ですが、こ  
で日本にも優れた戦争論があ  
ることを紹介したいと思います。  
それは原田統吉先生の『暴  
力論』(原田・テロリズム・核  
戦争をつなぐもの)『日本教  
文社、昭和六三年』です。お  
そらくのりになってからちょ  
と論壇からも忘れがちですの  
でここで、声を大にしてこの  
著述の重要性を強調させて戴  
きます。原田統吉という名前は、この二冊の著述によ  
っていつまでも言論界に残ると私は思っておりますので、  
是非参照して下さい。

原田先生は暴力戦争の絶対性をその本質から徹底的  
に究明しようとして、いわばニュートン力学における運  
動の第一法則(物体に力が働かない限り、物体は永遠に  
等速運動を続ける)のようなものを何とか見出したい  
と考えられて、ある原則に辿り着かれたものです。私も  
当時その丁寧な書評を書きましたので、よく覚えてお  
りますが、その法則とは「時間と空間を限れば、暴力は絶  
対である」ということです。そう覚えておりましたが、  
今回もう一度書評に当たってみると「暴力による絶対制  
圧には、時間的にも空間的にも限界が存在する」となっ  
ています。結局同じことを言っている訳ですが、私の受  
け取りの方が戦争に鈍感な人、軍事忌避の思考停止に  
陥っている人には訴求力があるかと思ひます。

重要なのは「時間と空間を限れば」ということ  
です。暴力の弱者の戦争方式は(密室)での決  
戦を避けることが重要であり、強者の側からは、密室形  
式に成功することが勝利のための重要な鍵となることを  
用兵のマニユールに大書しておかなければならない。  
これらを戦後の具体的な戦争でどうだったかを論ずるこ  
とができますが、それは今回省略して、この著述では冷  
戦について、はっきり「冷戦は戦争の戦いの新しい一形  
式」と明言されていることを付け加えておきたいと思  
います。

### 戦争の形態の変遷

戦争の形態ないし概念は常に変わる。この前の戦争に  
捕らわれて、次の戦争の新しい形態及び概念に無頓着で  
あれば、次の戦争に遅れをとって、新しい対応ができな  
くなります。近代においても戦争の形態及び概念は既に  
何度か変わっています。クラウゼヴィッツを金科玉条に  
しているものが解らなくなりました。近代の戦争概念を  
図式化すれば、クラウゼヴィッツの時代の戦争(総力戦  
→冷戦→非対称型の戦争、ということになります。冷戦

# 戦争の形態は常に変わる

## 非対称型戦争への備え

小林 路義 (文明評論家  
鈴鹿国際大学名誉教授)



らな戦争はできずにありません。しかし、利害の対立  
覇権主義、歴史的対立は当然ながら延々と続きます。と  
いふことは戦争の形態が変わるといふことに他なりません。  
つまり、「宣戦布告による国家間の戦争」によるな  
い戦争、全面戦争にはせずに日常的な侵略によって戦果  
を得る戦争が生じるということ、ポスト冷戦の時代に  
入って、現にあちこちで生じています。このような戦争  
の形態を英語でクリッピング・アグレッションと言いま  
すが、適切な訳語がなく、現在進行形の、そのような戦  
争の形態を十分に認識できない状況が続いています。

### サラミ・スライス戦法

私はそのクリッピング・アグレッションを非対称型の  
戦争と言っている訳ですが、非対称型という用語は、専  
門家の一部には理解できても、一般にはすぐに解って貰  
えないことを自覚していて、何か一般にも「さつと解つ  
て貰える」言葉が必要だと思っております。対中親和  
政策にのめり込んでいたアメリカが、中国の覇権主義に  
ようやく、遅ればせながら気付いて、三年前くらいに出  
てきた言葉がサラミ・スライス戦法という言葉です。こ  
れなら一般にもすぐに理  
解しやすい。小さな既成  
事実を積み重ねて、次第  
に戦略目標を達成しよう  
とする戦法、ジョブを繰  
り出して少しずつ既成事  
実を作り、それを積み重  
ねていくって戦略目的を達  
成しようとする戦法がサ  
ラミ・スライス戦法です。  
やられる方から見れば、  
それは嫌がらせ戦法です  
が、そう思うのは今は平時でそれを戦争だとは認識でき  
ないからに他なりません。

が戦争であったこと、また冷戦終結後も冷戦について  
総決算がなされていないこと(特に、自由主義側の知識  
人の容共主義の責任追及がなされていないこと)、その  
ためにポスト冷戦の時代の戦争がどういふものであるか  
解りにくくなっています。ここでポスト冷戦の戦争の形  
態が非対称型であることについて説明します。

### 非対称型の戦争とは

非対称型の戦争という用語は、もともとポスト冷戦の  
時代に入って頻発する無差別テロリズムに対して、それ  
を戦争として認識し、それにどう対応すべきかという問  
題認識から生まれた言葉で、英語ではエイシメントリッ  
ク・ウォーと言います。私はこれを引用して、無差別テ  
ロリズムに対してだけでなく、ポスト冷戦の時代の戦争  
そのものが非対称型の戦争であると申し上げたい訳で  
す。

考えてもみて戴きたい。二世紀においては最早、大  
国間・中型国家間での古典的な宣戦布告による、おっぴ

真髓であると同時に中国文明の本質につながっていま  
す。『孫子』の始計篇にはこうあります。「兵は詭道なり。  
故に、能なるものに不能を示し、用なるものに不用を示  
し、(中略)乱にして之を取り、実にして之に備え、強  
にして之を避け、怒にして之を撓(たが)し、卑にして  
之を驕らせ、佚(い)にして之を勞し、親にして之を  
離す。其の無備を攻め其の不意に出ず。此れ兵家の勝  
先には伝ふべからざるなり。」

文章の解説はしませんが、皆さん余り目にする機会  
はないと思いますので、ご参考までにハンドアウトに書  
ておきました。この中で、「其の無備を攻め、其の不意に  
出す」に出会ったときは、正に尖閣そのものではないか  
と思ひましたね。無備を攻めは不正にその通りですし、  
「其の不意に出す」がいつになるか。ここで参考になる  
のはロシアのクリミア奪取です(平成二六年)。国際関  
係のちょっとしたエポケットのとき「サツとこれを奪  
う」。同じ大陸文明の中国はロシアのこのやり方から大  
いに学んだはず。ここでもう一つ「少しずつ、既成  
事実」はどのような状況で生じるのかにも触れておく必要  
があります。ポイントは一、力の空白が生じたとき(南  
シナ海)、二、準備ができた順に侵犯(尖閣列島)とい  
うことです。

ここでちょっと兵法書の読み方についてコメントして  
おきます。『孫子』は兵法の書として有名な訳ですが、  
それは戦術論として読まれているからです。戦術論とし  
て読めば、参考になることばかりです。その点では、ク  
ラウゼヴィッツもそうであって、クラウゼヴィッツの『戦  
争論』もその大半は戦術論なのです。戦術論として読  
めば、兵法家にとって大いに参考になる訳で、いつまで  
もよく読まれている理由です。しかし、戦争論として読  
んだ場合は、別の視点が出てくる訳で、私はそれを先ほ  
ど申し上げた次第です。

### 総力戦の呪縛

最後になぜ一般の国民が、軍事忌避、防衛意識の欠如  
に終始して、偽りの反戦平和から抜け出せないのか。そ  
れは戦争イコール総力戦というこの前の戦争観から抜け  
出せないからなのです。自分たちが経験した戦争、或い  
は聞かされてきた戦争は、総力戦の戦争でした。それに  
捕らわれて、新しい戦争の形態に気付くことができない  
からなのです。このような囚われから脱皮させるために  
は、いくら平面的に防衛、国防の必要を訴求しても聞  
く耳をもたない。それを翻身させるためには上位の概念  
が必要なのです。戦争の形態は常に変わる。今始まって  
いる戦争は非対称型の戦争であって、この前の戦争とは  
違つたということを、強調する必要があります。既に開  
始されている「次の戦争」は新しい形態の戦争であって、  
過去の戦争形態に捕らわれていると、誤った対応をする  
ことになる。非対称型の戦争に備えなければならぬとい  
強調する所以です。長時間有難うございました。

### 兵は詭道なり

中国の南シナ海東シナ海の侵犯は他国の国家主権を侵  
犯している訳ですから、戦争ないし戦争行為そのもので  
す。そしてここで大事なことに気がきます。非対称型の  
戦争、サラミ・スライス戦法は中国が最も得意とする戦  
法だということです。「兵は詭道なり」は中国の戦争の

# 防衛講話

日時：平成29年7月8日(土)  
13時半～15時  
場所：プリムローズ大阪 鳳凰の間  
講師：海上自衛隊第4護衛隊 群司令 海将補 福田達也氏

## 講師略歴

平成2年 防衛大学校卒業(34期)  
平成19年 あまぎり艦長  
平成20年 統合幕僚監部計画課  
平成22年 海上幕僚監部防衛課  
平成23年 海上幕僚監部防衛課防衛班長  
平成24年 第8護衛隊司令  
平成25年 海上幕僚監部教育課長  
平成27年 大湊地方総監部幕僚長  
平成28年 現職

### 海上自衛隊第4護衛隊群司令 海将補 福田達也氏

- 第1部 海上自衛隊の概要(略)
- (1) 海洋の役割と海洋国家日本
  - (2) 海上自衛隊の活動
  - (3) 海上自衛隊の組織と編成
  - (4) 海上自衛隊の主要基地と装備

### 第2部 海賊対処活動の概要

まず、海賊対処のお話しをする前に、皆さんは、海賊と聞いてどんな姿を想像しますか？我々が慣れ親しんでいるのは、パイレーツオプカリビアンやジャック・スパーローやアニメのワンピースに出てくるキャラクターなどだと思います。実際は、船外機付きのボートに普段着の漁民が小銃を持っているというのが、その実態です。

### (1) ソマリア沖・アデン湾における海賊の活動

アデン湾とは、アラビア半島とアフリカ大陸の間にあって、ソマリア、イエメンに囲まれた海域のことを言います。日本からは、約6,500マイル(約12,000キロ)の位置にあり、護衛艦が行くと約20日間かかります。

この交通量は、年間約2万隻の商船が通行するアジアとヨーロッパを結ぶ世界でも有数の重要な海上交通路です。特に、コンテナ貨物は世界の20パーセントがこの海域を通過しています。日本関連船舶に限っても一日4～5隻の自動車運搬船やコンテナ船が通行しています。日本関連船舶とは、日本の国籍を有する船舶か、あるいは日本の船会社等が雇っている船舶のことを言います。この航行の自由が脅かされると世界の通商や海運に大打撃を与えるということがお分かりいただけると思います。

### ソマリア沖・アデン湾の海賊の歴史

もともと、領海内では漁民を襲撃して魚を奪う略奪行為がありました。1991年バレ政権が崩壊すると、種族の対立が激化し、それぞれの種族が利益獲得のための活動が中心となっていきました。海上では、外国人の不法漁業を阻止しようとする外国漁船を襲撃していましたが、やがて船舶を襲って略奪行為にエスカレーションし、さ

らにより大きな利益を求めて領海外にも進出するようになって海賊化していったというのが実態です。

・海賊の発生状況  
2007年からこの地域での海賊行為が増加してき



対処のために派遣を開始しました。以後、中国、ロシア、インド、イラン、マレーシア、日本、韓国などが、独自で艦隊を派遣し活動を開始しました。日本は、独自活動をしつつ、CTF151の活動も実施するという2足のワラジを履いて活動しています。そして、海賊行為の発生が見られないという理由から、2016年12月にNATOが活動を終了し撤退いたしました。

海賊対処参加部隊を大別しますと、ヨーロッパ海上連合部隊(EUNAVFOR)、東海上部隊(CMF)、北大西洋条約機構(NATO)、そして独自派遣の部隊が活動中でした。これらの部隊は、お互いに情報交換をし、連携しあって活動しております。

## 第151連合任務部隊指揮官を終えて

ており、これに呼応して2008年から国連安保理決議に基づいた国際的な取り組みが開始されました。海上自衛隊が参加したのは、2009年3月からで、当初は海上における警備行動で派遣されましたが、同年7月からは現行の「海賊対処法」によって活動しています。このような活動が功を奏し、2011年から減少し始めて2012年からは海賊による乗っ取り成功事例はゼロになりました。ところが、私が就任した直後に乗っ取り事件が発生したのを皮切りに8件の事件が発生し、海賊活動が再活性化したとみています。この原因については後ほど述べます。

海賊の発生時期については、季節によって左右され、モンスーンの時期は海賊活動は難しいため、その時期を除く3月～6月と9月～11月に海賊行為が発生しています。私の任期であった3月～6月は海賊発生の可能性の最も高い季節であったと言えます。

### (2) 海賊に対する国際的な取り組み

2008年の6月に国連安保理決議1816号が採択され、国際的な取り組みの論拠が確立しました。それを受けて、2008年12月からEUによる海賊対処活動が開始されました。2009年1月に連合海上部隊(CMF)が海賊対処活動専門部隊である第151連合任務部隊(CTF151)を編成し、活動を開始しました。2009年8月からは、NATOが常設艦隊を海賊

ました。2011年6月からは、このP-3Cの活動拠点をジブチ共和国に開設し、運用を開始しました。2013年12月からは、独自派遣を実施しつつ、第151連合任務部隊に参加し区域防護を開始しました。2015年7月から3カ月間、海上自衛隊として初めて第151連合任務部隊指揮官を派出し、指揮を執りました。本年3月から3カ月間、2度目の部隊指揮官として、私が派出されたわけですが、

日本の海賊対処部隊は、自衛隊司令官が指揮を執り、派遣海賊対処行動水上任務部隊、派遣海賊対処航空隊及び派遣海賊対処行動支援隊から編成され、加えて、第151連合任務部隊司令部派遣隊から編成されており、派遣海賊対処行動支援隊は、陸上自衛隊と海上自衛隊の混成部隊であり、主として航空隊の支援を実施しております。また、水上部隊の護衛艦には、法執行のために海上保安官が乗り組んでおります。

本年5月までの実績は、水上部隊が実施した直接護衛は785回3791隻、区域防護は987日、確認商船は14、100隻にのぼります。また、航空隊は、1810回出撃し、確認した商船は150、100隻です。

### (4) 第151連合任務部隊とは

第151任務部隊司令部は、バレーンにおいて、司令部である私のスタッフは海上自衛官12名を含む25名で構成されておりました。幕僚はまさに多国籍で、参謀長はイギリス人、その補佐はバレーン人、情報幕僚はオーストラリア人といった具合でしたが、みな優秀なスタッフで、作戦遂行にはまったく支障はありませんでした。

私が任務を遂行した期間に起こった主な海賊事件について2つ紹介します。まず、着任して4日後の3月13日に、コモロ共和国船籍のオイルタンカー「ARIS13」が海賊に襲撃され乗っ取られました。3日後にバレーンと警察との交戦の後、解放され、解放後「きりさめ」と海自P-3Cが最初に安全を確認し、その後、護衛を受けて安全にこの海域を離脱しました。これは、2012年以降5年ぶりの乗っ取り事件であり、衝撃的な事案でした。

それから約1カ月後の4月8日、ツバル船籍のばら積み船「OS35」が襲撃され、乗っ取られました。第151連合任務部隊のパキスタン、アメリカ、第465連合任務部隊のイギリス、独自派遣のインド及び中国の艦艇が急行し、連携して当該船舶を包囲しました。その後中国海軍特殊部隊が当該船舶に乗り込んで海賊を拘束、乗員を開放しました。

この5年間、このような海賊による襲撃、乗っ取り事件は皆無であったにもかかわらず、ここに来て再発したのは、いくつかの理由が推定されます。

その一つが、国際社会の海賊事象に対する意識・関心の低下です。

海運業界・商船業界の油断ともいえるべきでしょうか、彼らがBMP(バスター・マネージメント・プラクティス

を遵守していないことです。BMPとは、セキュリティチームの乗船、有刺鉄線の装備、散水の実施、避難区域の設置など海賊から自らを守る対策のことです。これらには、当然コストがかかります。例えば、セキュリティチームを乗せると1航海130万円、有刺鉄線には90万円かかるのでこれはコスト削減のため実施されなくなってきたということがあります。「OS35」の場合は、かろうじて退避区域を設置していたので、中国海軍の特殊部隊の突入が比較的容易に実施され、乗員は無事救出されました。他方、「ARIS13」の方は、まったく対策が施されていない上に、喫水が低く、速力も7ノットしか出ないという、海賊にとっては極めて襲撃しやすい船舶だったということです。

また、国際社会の関心の低下の表れとして、各国の事情により派出兵力が減少しているということがあります。特に昨年暮れにNATOが撤退したのは大きな痛手となりました。

もう一つの推定原因として、ソマリアの事情が考えられます。政治情が不安定な上、近年の干ばつのため、国民の半数が食糧不足に陥っているといわれています。そのような中で、仕事に就けない若者が仕事を求めて海賊に従事するというのが実態です。

上で述べた海賊事象の発生に対応して、私は連合任務部隊の指揮官として、いくつかの対策を講じました。

まず、ソマリア沿岸海域における監視の強化です。特にソマリア島周辺の海賊の発生しやすい海域を重点的に監視体制を強化しました。あわせて、商船などへの注意喚起、BMPを遵守していない船舶への指導強化などを実施しました。

次に、各国海軍による海賊対処訓練を実施しました。また、FOCUSSED OPERATION と称する集中的な作戦を実施し、航行する商船に注意喚起するデモンストラティブな監視活動を実施させました。

そして、これらの訓練や作戦を積極的に広報して、情報を発信しました。これにより、海賊活動を抑止するとともに、商船に対して安心感を与えることを期待しました。さらに、国際会議において、あるいは、関係各国を訪問して、海賊事象の最新の状況を説明し、情報を共有することによって、関係各国の関心を高める努力をしました。セシル訪問時には、逮捕監視されている海賊と面会する機会もありました。

以上が、私がとった対策ですが、どの程度効果があったかは不明ですが、やはり、これらのことを地道に継続して実施していくことが大事であると思います。

海上自衛隊の活動の一端をご説明いたしました。このように世界を駆け巡って活躍している海上自衛隊です。制服もカッコいい、海のロマンを感じながら仕事ができる素晴らしい職業なのですが、他方で、電話が通じない、メールができない、自由がないなど若者には人気がいらない職業でもあります。もし、お近くに適齢期の方がいらっしゃったら、ぜひ、お声掛けいただき、海上自衛隊の良さを知っていただき、一人でも多くの若者に入隊いただきたいと思います。ご清聴ありがとうございます。

長野県飯田市、杵原学校前



関西防衛を支える会  
富士総合火力演習見学  
平成29年8月26～27日



ランチャーが発射された瞬間

徳島にも陸上自衛隊があります。私が馴染みの深いのは海上自衛隊の中、雄大な富士の裾野を前にその時を待ちました。思えば平成二年に、縁が

平成二十九年八月二十七日は私にとって記念すべき二十五年来の念願が叶い、関西防衛を支える会の有志と兵にあこがれの地へ赴きました。



音楽演奏、会場の左右に配置された大型スクリーンによる陸上自衛隊広報の丁寧で解りやすいビデオの放映の後、これから始まる演習に先駆け演習展示地域(目標地域の説明)がスクリーンを通して丁寧に私のような素人にも解りやすくアナウンスされました。

前日のバスの中のテレビで、BSのヒストリーチャンネルで見掛けるような陸・海・空の装備を走行中と見えていたもので、目の前に正にその戦車であったり、ヘリコプターであったり、紫の台の奥に「2の台から6の台」さらにもっと

私の目前に戦闘へりであるコブラやアパッチが低空で待機している時も展示された写真でしか目にしていなかったのが、実物が目の前で飛行しながら射撃をしているとドキドキしながら実弾が飛んで行く先を見守っていました。

夜の宴では浪速観光社の北嶋社長の楽しいパフォーマンスがあり、聞くに關する旅行では、毎回の演技たそう、さすが大阪の役者だと思えました。

自衛隊ファンの私ですが、この演習を見学して日夜鍛錬されている自衛官の方々に益々応援・フォローしていかないとーという気持ちになりました。

# 私の興奮

会員 望月 法子

今年から高橋忠義様のご紹介により入会させて頂いて頂きました。住まいが徳島なのでなかなか大阪まで出て来れませんが、この度の富士総合火力演習にはぜひとも参加させて頂きたいと前日に大阪入りしました。初めてお会いする方々なので、多少の緊張感がありましたが、バスに乗り込み杵原学校(長野県飯田市)に到着するころには皆様方と馴染み始めたかなと思えました。

平成二十九年八月二十七日は私にとって記念すべき二十五年来の念願が叶い、関西防衛を支える会の有志と兵にあこがれの地へ赴きました。



バスを降りてから会場までの間、緩やかな傾斜ではあるのですが、ゴツゴツした石が向き出しの道をひたすら歩いて辿り着いた先に、朝八時過ぎ、太陽は雲に隠れ、そよそよとした風を感じるような清々しいひと時を富士学校音楽隊による

奥に「二段山・三段山」と続き開始前にこの二段山と三段山辺りから黄色と青色の煙が上がりました。ここまでの距離三〇〇mあるとのことでした。

過去に訓練展示を目にしたヘリコプターは編隊を組んで飛来し、去っていく。そんな場面の中で陸上自衛隊機、海上自衛隊機とのアナウンスに感心していた私だったので、ここに来て戦闘機に出会って、ヘリコプターも観測用もあれば多用途ヘリコプター、輸送ヘリコプターの存在も知ることになりました。

座っている座席ごと地響きで一瞬身体が浮くような感覚、バスを降りてから悪路をひたすら往復歩いた経験、そして広々とした演習場、そして繰り返された数々の実演。見学は初めてだったので、上手く言葉に表すことが出来ませんが、幽雅な思い、いっばい、只々感無量の私でした。

# 富士総合火力演習

# 見学記

8月26・27日 東富士演習場

杵原学校とは新制中学校の校舎として昭和24年に建築され、今は廃校になっていますが国の有形文化財として

今まで駐屯地での訓練展示を拝見、それに感激したり感動したりはありましたが、今までに見たことのない速度で戦車が登場、撃ちました。二段山・三段山辺りに着弾、灰煙があがってしばらく間をおいてから遠

「東亜同文書院大学」と言う名前の学校があった事を「存在したのか。明治34年、侯爵・近衛篤磨会長により上海に設立された「東亜同文書院」が母体で、初代院長・根津一が「日支ノ英才ヲ教ヘ、支那富強ノ本ヲ立テテ」と綱領に謳った。曲折はあったものの文部省認可の大学まで発展したが、昭和20年の敗戦により消滅した。幻の名門校と云われる「書院」の学籍簿など、ゆかりの書籍は愛知大学に保管されている。

この命に從うからである。この虐殺行為は支那興亡四千年の宿痾であろう。大陸踏査の大旅行 近所の食堂では書院の学生はツケが効いたので、学生達は「孔子」と言うように支那では「子」は男子の名称なので「花子」などの偽名で飯を食ったが月末、学校に集金に来た食堂のオヤジは学校当局に訴えて偽名が発覚して大目玉を食らった。また食堂のテーブルを拭く布巾は3番番油で煮しめたような代物だったが、食堂のオヤジは熱湯消毒しているから問題ない。客の飲み残したコップにお茶を継ぎ足して平気で出すなど当たり前で日本人学生は文化風習の違いに戸惑ったなど。

追放令により炭焼き仕事に従事。講和条約発効後公職追放が解除され、昭和29年高校教諭として採用され、校長を定年退職して、ボランティアで中国に渡り日本語を教えておられた。

上海交通大學は同文書院の元校舎を使用しており、そこで長らく日本語を教えていたが、当時の江沢民国家主席は交通大學の出身で「江先生は江沢民は後輩だ」と学生に云っていると、反日江沢民でさえ後輩だと云って同文書院の綱領「支那富強ノ本ヲ立テテ」を實踐させていた。南京大虐殺は荒唐無稽だと、当時の南京の人口は20万人くらいで、当時南京にいたアメリカの宣教師も虐殺などに言及していない。

無実の罪に從容として服した同胞 戦犯はA級、B級、C級のランクに区別された。A級は東京裁判(極東国際軍事裁判)と呼ばれ東京市ヶ谷(現防衛省)の陸軍士官学校の講堂で開かれた。起訴罪名は「平和二対スル罪」「人道二対スル罪」「人道二対スル罪」など。B級は前述の通り。C級は捕虜虐待などで主に下士官、兵が該当した。いざいざも軍事裁判でB級は海外各地で裁かれた。それはインドネシア、フィリピン、マレーシア、ビルマなど東南アジア全域におよんでいる。逮捕された人達は3万6千人とも謂れ、その内の約千名が銃殺刑に処された。理不尽な事後法であり、杜撰な伝聞調査、虚偽の証言、通訳不在などで無実の罪を背負わされたデータが同胞は從容と禍(まが)つ神の裁きに服した。

A級戦犯裁判で7名の人間が絞首刑を宣告されたが特筆すべきは、A級戦犯の起訴日は昭和21年4月29日(昭和天皇誕生日)、処刑日は昭和23年12月23日である。この12月23日は当時皇太子であった今上陛下の誕生日である。未来永劫日本人の記憶に刻む狡知狡猾東京、大阪の無差別大空襲、広島、長崎の無辜の市民大虐殺を棚上げして、何が平和に対する罪だと云いたい。惻理に背馳するアングロサクソンの報復裁判を我々は忘れてはならない。

註・根津一…万延元年、甲斐國生れ、元陸軍少佐。荒尾精(尾張藩士、安政6年元陸軍大尉)と共に『清国商業総覽』を刊行。両者とも参謀本部から軍事探偵の密命を帯びていた。

「東亜同文書院大学」と言う名前の学校があった事を「存在したのか。明治34年、侯爵・近衛篤磨会長により上海に設立された「東亜同文書院」が母体で、初代院長・根津一が「日支ノ英才ヲ教ヘ、支那富強ノ本ヲ立テテ」と綱領に謳った。曲折はあったものの文部省認可の大学まで発展したが、昭和20年の敗戦により消滅した。幻の名門校と云われる「書院」の学籍簿など、ゆかりの書籍は愛知大学に保管されている。

この命に從うからである。この虐殺行為は支那興亡四千年の宿痾であろう。大陸踏査の大旅行 近所の食堂では書院の学生はツケが効いたので、学生達は「孔子」と言うように支那では「子」は男子の名称なので「花子」などの偽名で飯を食ったが月末、学校に集金に来た食堂のオヤジは学校当局に訴えて偽名が発覚して大目玉を食らった。また食堂のテーブルを拭く布巾は3番番油で煮しめたような代物だったが、食堂のオヤジは熱湯消毒しているから問題ない。客の飲み残したコップにお茶を継ぎ足して平気で出すなど当たり前で日本人学生は文化風習の違いに戸惑ったなど。

追放令により炭焼き仕事に従事。講和条約発効後公職追放が解除され、昭和29年高校教諭として採用され、校長を定年退職して、ボランティアで中国に渡り日本語を教えておられた。

上海交通大學は同文書院の元校舎を使用しており、そこで長らく日本語を教えていたが、当時の江沢民国家主席は交通大學の出身で「江先生は江沢民は後輩だ」と学生に云っていると、反日江沢民でさえ後輩だと云って同文書院の綱領「支那富強ノ本ヲ立テテ」を實踐させていた。南京大虐殺は荒唐無稽だと、当時の南京の人口は20万人くらいで、当時南京にいたアメリカの宣教師も虐殺などに言及していない。

無実の罪に從容として服した同胞 戦犯はA級、B級、C級のランクに区別された。A級は東京裁判(極東国際軍事裁判)と呼ばれ東京市ヶ谷(現防衛省)の陸軍士官学校の講堂で開かれた。起訴罪名は「平和二対スル罪」「人道二対スル罪」「人道二対スル罪」など。B級は前述の通り。C級は捕虜虐待などで主に下士官、兵が該当した。いざいざも軍事裁判でB級は海外各地で裁かれた。それはインドネシア、フィリピン、マレーシア、ビルマなど東南アジア全域におよんでいる。逮捕された人達は3万6千人とも謂れ、その内の約千名が銃殺刑に処された。理不尽な事後法であり、杜撰な伝聞調査、虚偽の証言、通訳不在などで無実の罪を背負わされたデータが同胞は從容と禍(まが)つ神の裁きに服した。

A級戦犯裁判で7名の人間が絞首刑を宣告されたが特筆すべきは、A級戦犯の起訴日は昭和21年4月29日(昭和天皇誕生日)、処刑日は昭和23年12月23日である。この12月23日は当時皇太子であった今上陛下の誕生日である。未来永劫日本人の記憶に刻む狡知狡猾東京、大阪の無差別大空襲、広島、長崎の無辜の市民大虐殺を棚上げして、何が平和に対する罪だと云いたい。惻理に背馳するアングロサクソンの報復裁判を我々は忘れてはならない。

註・根津一…万延元年、甲斐國生れ、元陸軍少佐。荒尾精(尾張藩士、安政6年元陸軍大尉)と共に『清国商業総覽』を刊行。両者とも参謀本部から軍事探偵の密命を帯びていた。

「東亜同文書院大学」と言う名前の学校があった事を「存在したのか。明治34年、侯爵・近衛篤磨会長により上海に設立された「東亜同文書院」が母体で、初代院長・根津一が「日支ノ英才ヲ教ヘ、支那富強ノ本ヲ立テテ」と綱領に謳った。曲折はあったものの文部省認可の大学まで発展したが、昭和20年の敗戦により消滅した。幻の名門校と云われる「書院」の学籍簿など、ゆかりの書籍は愛知大学に保管されている。

この命に從うからである。この虐殺行為は支那興亡四千年の宿痾であろう。大陸踏査の大旅行 近所の食堂では書院の学生はツケが効いたので、学生達は「孔子」と言うように支那では「子」は男子の名称なので「花子」などの偽名で飯を食ったが月末、学校に集金に来た食堂のオヤジは学校当局に訴えて偽名が発覚して大目玉を食らった。また食堂のテーブルを拭く布巾は3番番油で煮しめたような代物だったが、食堂のオヤジは熱湯消毒しているから問題ない。客の飲み残したコップにお茶を継ぎ足して平気で出すなど当たり前で日本人学生は文化風習の違いに戸惑ったなど。

追放令により炭焼き仕事に従事。講和条約発効後公職追放が解除され、昭和29年高校教諭として採用され、校長を定年退職して、ボランティアで中国に渡り日本語を教えておられた。

上海交通大學は同文書院の元校舎を使用しており、そこで長らく日本語を教えていたが、当時の江沢民国家主席は交通大學の出身で「江先生は江沢民は後輩だ」と学生に云っていると、反日江沢民でさえ後輩だと云って同文書院の綱領「支那富強ノ本ヲ立テテ」を實踐させていた。南京大虐殺は荒唐無稽だと、当時の南京の人口は20万人くらいで、当時南京にいたアメリカの宣教師も虐殺などに言及していない。

無実の罪に從容として服した同胞 戦犯はA級、B級、C級のランクに区別された。A級は東京裁判(極東国際軍事裁判)と呼ばれ東京市ヶ谷(現防衛省)の陸軍士官学校の講堂で開かれた。起訴罪名は「平和二対スル罪」「人道二対スル罪」「人道二対スル罪」など。B級は前述の通り。C級は捕虜虐待などで主に下士官、兵が該当した。いざいざも軍事裁判でB級は海外各地で裁かれた。それはインドネシア、フィリピン、マレーシア、ビルマなど東南アジア全域におよんでいる。逮捕された人達は3万6千人とも謂れ、その内の約千名が銃殺刑に処された。理不尽な事後法であり、杜撰な伝聞調査、虚偽の証言、通訳不在などで無実の罪を背負わされたデータが同胞は從容と禍(まが)つ神の裁きに服した。

A級戦犯裁判で7名の人間が絞首刑を宣告されたが特筆すべきは、A級戦犯の起訴日は昭和21年4月29日(昭和天皇誕生日)、処刑日は昭和23年12月23日である。この12月23日は当時皇太子であった今上陛下の誕生日である。未来永劫日本人の記憶に刻む狡知狡猾東京、大阪の無差別大空襲、広島、長崎の無辜の市民大虐殺を棚上げして、何が平和に対する罪だと云いたい。惻理に背馳するアングロサクソンの報復裁判を我々は忘れてはならない。

註・根津一…万延元年、甲斐國生れ、元陸軍少佐。荒尾精(尾張藩士、安政6年元陸軍大尉)と共に『清国商業総覽』を刊行。両者とも参謀本部から軍事探偵の密命を帯びていた。

そのひとつは戦争原因にならないが、小さな行動を時間を掛けて積み重ねて行き初期の目的を達成する。まさに尖閣諸島に対する中国の典型的な戦術であり我が国はその術中に嵌っている。南沙諸島は既に中国の手中に落ちた。宣戦布告なき戦争が始まっている事を我々は覚醒せねばならない。第三次世界大戦の序章が始まっているとの覚悟である。

氏の論考と袁原氏の論考はリンクしていて、両論を是非とも熟読して頂きたいものです。(新)

袁原教授の論考は、日本人としての精神を持っている者には無然然考を強いられる。かつてアチソン・ライン(米國務長官アチソンの構想)は朝鮮半島、インドシナ半島を放棄してアリュウシヤン列島から日本、沖縄、フィリピンを結ぶ米国の防衛ラインである。蒋介石の台湾も除かれている。この構想の背景は昭和25年6月、国境化していた38度線を越えてソウルを電撃した共産主義の脅威に對しての米国の反応である。トルーマン・ドクトリン(共産主義封じ込め)、マーシャル・プラン(欧州復興支援策)などを推進したアチソンの構想は今、現実味を帯びているのではないか。それは米国の韓国放棄説である。

袁原教授の北朝鮮問題の解決は、戦争を避けるために、北の核を容認して朝鮮半島の政権選択を中国に任せる、と言う米国の決断があれば解決する、との説。この場合日本が最前線になり、核を持つ朝鮮半島が出現する。これは我が国にとって悪夢のような話である。小林路義氏の講演は言うなれば「常在戦場」の心構え、国民への注意喚起であろう。軍事忌避からの脱却を急げとの喚起である。「サラミ戦法」とは、

「東亜同文書院大学」と言う名前の学校があった事を「存在したのか。明治34年、侯爵・近衛篤磨会長により上海に設立された「東亜同文書院」が母体で、初代院長・根津一が「日支ノ英才ヲ教ヘ、支那富強ノ本ヲ立テテ」と綱領に謳った。曲折はあったものの文部省認可の大学まで発展したが、昭和20年の敗戦により消滅した。幻の名門校と云われる「書院」の学籍簿など、ゆかりの書籍は愛知大学に保管されている。

この命に從うからである。この虐殺行為は支那興亡四千年の宿痾であろう。大陸踏査の大旅行 近所の食堂では書院の学生はツケが効いたので、学生達は「孔子」と言うように支那では「子」は男子の名称なので「花子」などの偽名で飯を食ったが月末、学校に集金に来た食堂のオヤジは学校当局に訴えて偽名が発覚して大目玉を食らった。また食堂のテーブルを拭く布巾は3番番油で煮しめたような代物だったが、食堂のオヤジは熱湯消毒しているから問題ない。客の飲み残したコップにお茶を継ぎ足して平気で出すなど当たり前で日本人学生は文化風習の違いに戸惑ったなど。

追放令により炭焼き仕事に従事。講和条約発効後公職追放が解除され、昭和29年高校教諭として採用され、校長を定年退職して、ボランティアで中国に渡り日本語を教えておられた。

上海交通大學は同文書院の元校舎を使用しており、そこで長らく日本語を教えていたが、当時の江沢民国家主席は交通大學の出身で「江先生は江沢民は後輩だ」と学生に云っていると、反日江沢民でさえ後輩だと云って同文書院の綱領「支那富強ノ本ヲ立テテ」を實踐させていた。南京大虐殺は荒唐無稽だと、当時の南京の人口は20万人くらいで、当時南京にいたアメリカの宣教師も虐殺などに言及していない。

無実の罪に從容として服した同胞 戦犯はA級、B級、C級のランクに区別された。A級は東京裁判(極東国際軍事裁判)と呼ばれ東京市ヶ谷(現防衛省)の陸軍士官学校の講堂で開かれた。起訴罪名は「平和二対スル罪」「人道二対スル罪」「人道二対スル罪」など。B級は前述の通り。C級は捕虜虐待などで主に下士官、兵が該当した。いざいざも軍事裁判でB級は海外各地で裁かれた。それはインドネシア、フィリピン、マレーシア、ビルマなど東南アジア全域におよんでいる。逮捕された人達は3万6千人とも謂れ、その内の約千名が銃殺刑に処された。理不尽な事後法であり、杜撰な伝聞調査、虚偽の証言、通訳不在などで無実の罪を背負わされたデータが同胞は從容と禍(まが)つ神の裁きに服した。

A級戦犯裁判で7名の人間が絞首刑を宣告されたが特筆すべきは、A級戦犯の起訴日は昭和21年4月29日(昭和天皇誕生日)、処刑日は昭和23年12月23日である。この12月23日は当時皇太子であった今上陛下の誕生日である。未来永劫日本人の記憶に刻む狡知狡猾東京、大阪の無差別大空襲、広島、長崎の無辜の市民大虐殺を棚上げして、何が平和に対する罪だと云いたい。惻理に背馳するアングロサクソンの報復裁判を我々は忘れてはならない。

註・根津一…万延元年、甲斐國生れ、元陸軍少佐。荒尾精(尾張藩士、安政6年元陸軍大尉)と共に『清国商業総覽』を刊行。両者とも参謀本部から軍事探偵の密命を帯びていた。

そのひとつは戦争原因にならないが、小さな行動を時間を掛けて積み重ねて行き初期の目的を達成する。まさに尖閣諸島に対する中国の典型的な戦術であり我が国はその術中に嵌っている。南沙諸島は既に中国の手中に落ちた。宣戦布告なき戦争が始まっている事を我々は覚醒せねばならない。第三次世界大戦の序章が始まっているとの覚悟である。

氏の論考と袁原氏の論考はリンクしていて、両論を是非とも熟読して頂きたいものです。(新)

袁原教授の論考は、日本人としての精神を持っている者には無然然考を強いられる。かつてアチソン・ライン(米國務長官アチソンの構想)は朝鮮半島、インドシナ半島を放棄してアリュウシヤン列島から日本、沖縄、フィリピンを結ぶ米国の防衛ラインである。蒋介石の台湾も除かれている。この構想の背景は昭和25年6月、国境化していた38度線を越えてソウルを電撃した共産主義の脅威に對しての米国の反応である。トルーマン・ドクトリン(共産主義封じ込め)、マーシャル・プラン(欧州復興支援策)などを推進したアチソンの構想は今、現実味を帯びているのではないか。それは米国の韓国放棄説である。

袁原教授の北朝鮮問題の解決は、戦争を避けるために、北の核を容認して朝鮮半島の政権選択を中国に任せる、と言う米国の決断があれば解決する、との説。この場合日本が最前線になり、核を持つ朝鮮半島が出現する。これは我が国にとって悪夢のような話である。小林路義氏の講演は言うなれば「常在戦場」の心構え、国民への注意喚起であろう。軍事忌避からの脱却を急げとの喚起である。「サラミ戦法」とは、

「東亜同文書院大学」と言う名前の学校があった事を「存在したのか。明治34年、侯爵・近衛篤磨会長により上海に設立された「東亜同文書院」が母体で、初代院長・根津一が「日支ノ英才ヲ教ヘ、支那富強ノ本ヲ立テテ」と綱領に謳った。曲折はあったものの文部省認可の大学まで発展したが、昭和20年の敗戦により消滅した。幻の名門校と云われる「書院」の学籍簿など、ゆかりの書籍は愛知大学に保管されている。

この命に從うからである。この虐殺行為は支那興亡四千年の宿痾であろう。大陸踏査の大旅行 近所の食堂では書院の学生はツケが効いたので、学生達は「孔子」と言うように支那では「子」は男子の名称なので「花子」などの偽名で飯を食ったが月末、学校に集金に来た食堂のオヤジは学校当局に訴えて偽名が発覚して大目玉を食らった。また食堂のテーブルを拭く布巾は3番番油で煮しめたような代物だったが、食堂のオヤジは熱湯消毒しているから問題ない。客の飲み残したコップにお茶を継ぎ足して平気で出すなど当たり前で日本人学生は文化風習の違いに戸惑ったなど。

追放令により炭焼き仕事に従事。講和条約発効後公職追放が解除され、昭和29年高校教諭として採用され、校長を定年退職して、ボランティアで中国に渡り日本語を教えておられた。

上海交通大學は同文書院の元校舎を使用しており、そこで長らく日本語を教えていたが、当時の江沢民国家主席は交通大學の出身で「江先生は江沢民は後輩だ」と学生に云っていると、反日江沢民でさえ後輩だと云って同文書院の綱領「支那富強ノ本ヲ立テテ」を實踐させていた。南京大虐殺は荒唐無稽だと、当時の南京の人口は20万人くらいで、当時南京にいたアメリカの宣教師も虐殺などに言及していない。

無実の罪に從容として服した同胞 戦犯はA級、B級、C級のランクに区別された。A級は東京裁判(極東国際軍事裁判)と呼ばれ東京市ヶ谷(現防衛省)の陸軍士官学校の講堂で開かれた。起訴罪名は「平和二対スル罪」「人道二対スル罪」「人道二対スル罪」など。B級は前述の通り。C級は捕虜虐待などで主に下士官、兵が該当した。いざいざも軍事裁判でB級は海外各地で裁かれた。それはインドネシア、フィリピン、マレーシア、ビルマなど東南アジア全域におよんでいる。逮捕された人達は3万6千人とも謂れ、その内の約千名が銃殺刑に処された。理不尽な事後法であり、杜撰な伝聞調査、虚偽の証言、通訳不在などで無実の罪を背負わされたデータが同胞は從容と禍(まが)つ神の裁きに服した。

A級戦犯裁判で7名の人間が絞首刑を宣告されたが特筆すべきは、A級戦犯の起訴日は昭和21年4月29日(昭和天皇誕生日)、処刑日は昭和23年12月23日である。この12月23日は当時皇太子であった今上陛下の誕生日である。未来永劫日本人の記憶に刻む狡知狡猾東京、大阪の無差別大空襲、広島、長崎の無辜の市民大虐殺を棚上げして、何が平和に対する罪だと云いたい。惻理に背馳するアングロサクソンの報復裁判を我々は忘れてはならない。

註・根津一…万延元年、甲斐國生れ、元陸軍少佐。荒尾精(尾張藩士、安政6年元陸軍大尉)と共に『清国商業総覽』を刊行。両者とも参謀本部から軍事探偵の密命を帯びていた。

そのひとつは戦争原因にならないが、小さな行動を時間を掛けて積み重ねて行き初期の目的を達成する。まさに尖閣諸島に対する中国の典型的な戦術であり我が国はその術中に嵌っている。南沙諸島は既に中国の手中に落ちた。宣戦布告なき戦争が始まっている事を我々は覚醒せねばならない。第三次世界大戦の序章が始まっているとの覚悟である。

氏の論考と袁原氏の論考はリンクしていて、両論を是非とも熟読して頂きたいものです。(新)

袁原教授の論考は、日本人としての精神を持っている者には無然然考を強いられる。かつてアチソン・ライン(米國務長官アチソンの構想)は朝鮮半島、インドシナ半島を放棄してアリュウシヤン列島から日本、沖縄、フィリピンを結ぶ米国の防衛ラインである。蒋介石の台湾も除かれている。この構想の背景は昭和25年6月、国境化していた38度線を越えてソウルを電撃した共産主義の脅威に對しての米国の反応である。トルーマン・ドクトリン(共産主義封じ込め)、マーシャル・プラン(欧州復興支援策)などを推進したアチソンの構想は今、現実味を帯びているのではないか。それは米国の韓国放棄説である。

袁原教授の北朝鮮問題の解決は、戦争を避けるために、北の核を容認して朝鮮半島の政権選択を中国に任せる、と言う米国の決断があれば解決する、との説。この場合日本が最前線になり、核を持つ朝鮮半島が出現する。これは我が国にとって悪夢のような話である。小林路義氏の講演は言うなれば「常在戦場」の心構え、国民への注意喚起であろう。軍事忌避からの脱却を急げとの喚起である。「サラミ戦法」とは、

「東亜同文書院大学」と言う名前の学校があった事を「存在したのか。明治34年、侯爵・近衛篤磨会長により上海に設立された「東亜同文書院」が母体で、初代院長・根津一が「日支ノ英才ヲ教ヘ、支那富強ノ本ヲ立テテ」と綱領に謳った。曲折はあったものの文部省認可の大学まで発展したが、昭和20年の敗戦により消滅した。幻の名門校と云われる「書院」の学籍簿など、ゆかりの書籍は愛知大学に保管されている。

この命に從うからである。この虐殺行為は支那興亡四千年の宿痾であろう。大陸踏査の大旅行 近所の食堂では書院の学生はツケが効いたので、学生達は「孔子」と言うように支那では「子」は男子の名称なので「花子」などの偽名で飯を食ったが月末、学校に集金に来た食堂のオヤジは学校当局に訴えて偽名が発覚して大目玉を食らった。また食堂のテーブルを拭く布巾は3番番油で煮しめたような代物だったが、食堂のオヤジは熱湯消毒しているから問題ない。客の飲み残したコップにお茶を継ぎ足して平気で出すなど当たり前で日本人学生は文化風習の違いに戸惑ったなど。

追放令により炭焼き仕事に従事。講和条約発効後公職追放が解除され、昭和29年高校教諭として採用され、校長を定年退職して、ボランティアで中国に渡り日本語を教えておられた。

上海交通大學は同文書院の元校舎を使用しており、そこで長らく日本語を教えていたが、当時の江沢民国家主席は交通大學の出身で「江先生は江沢民は後輩だ」と学生に云っていると、反日江沢民でさえ後輩だと云って同文書院の綱領「支那富強ノ本ヲ立テテ」を實踐させていた。南京大虐殺は荒唐無稽だと、当時の南京の人口は20万人くらいで、当時南京にいたアメリカの宣教師も虐殺などに言及していない。

無実の罪に從容として服した同胞 戦犯はA級、B級、C級のランクに区別された。A級は東京裁判(極東国際軍事裁判)と呼ばれ東京市ヶ谷(現防衛省)の陸軍士官学校の講堂で開かれた。起訴罪名は「平和二対スル罪」「人道二対スル罪」「人道二対スル罪」など。B級は前述の通り。C級は捕虜虐待などで主に下士官、兵が該当した。いざいざも軍事裁判でB級は海外各地で裁かれた。それはインドネシア、フィリピン、マレーシア、ビルマなど東南アジア全域におよんでいる。逮捕された人達は3万6千人とも謂れ、その内の約千名が銃殺刑に処された。理不尽な事後法であり、杜撰な伝聞調査、虚偽の証言、通訳不在などで無実の罪を背負わされたデータが同胞は從容と禍(まが)つ神の裁きに服した。

A級戦犯裁判で7名の人間が絞首刑を宣告されたが特筆すべきは、A級戦犯の起訴日は昭和21年4月29日(昭和天皇誕生日)、処刑日は昭和23年12月23日である。この12月23日は当時皇太子であった今上陛下の誕生日である。未来永劫日本人の記憶に刻む狡知狡猾東京、大阪の無差別大空襲、広島、長崎の無辜の市民大虐殺を棚上げして、何が平和に対する罪だと云いたい。惻理に背馳するアングロサクソンの報復裁判を我々は忘れてはならない。

註・根津一…万延元年、甲斐國生れ、元陸軍少佐。荒尾精(尾張藩士、安政6年元陸軍大尉)と共に『清国商業総覽』を刊行。両者とも参謀本部から軍事探偵の密命を帯びていた。

そのひとつは戦争原因にならないが、小さな行動を時間を掛けて積み重ねて行き初期の目的を達成する。まさに尖閣諸島に対する中国の典型的な戦術であり我が国はその術中に嵌っている。南沙諸島は既に中国の手中に落ちた。宣戦布告なき戦争が始まっている事を我々は覚醒せねばならない。第三次世界大戦の序章が始まっているとの覚悟である。

氏の論考と袁原氏の論考はリンクしていて、両論を是非とも熟読して頂きたいものです。(新)

袁原教授の論考は、日本人としての精神を持っている者には無然然考を強いられる。かつてアチソン・ライン(米國務長官アチソンの構想)は朝鮮半島、インドシナ半島を放棄してアリュウシヤン列島から日本、沖縄、フィリピンを結ぶ米国の防衛ラインである。蒋介石の台湾も除かれている。この構想の背景は昭和25年6月、国境化していた38度線を越えてソウルを電撃した共産主義の脅威に對しての米国の反応である。トルーマン・ドクトリン(共産主義封じ込め)、マーシャル・プラン(欧州復興支援策)などを推進したアチソンの構想は今、現実味を帯びているのではないか。それは米国の韓国放棄説である。

袁原教授の北朝鮮問題の解決は、戦争を避けるために、北の核を容認して朝鮮半島の政権選択を中国に任せる、と言う米国の決断があれば解決する、との説。この場合日本が最前線になり、核を持つ朝鮮半島が出現する。これは我が国にとって悪夢のような話である。小林路義氏の講演は言うなれば「常在戦場」の心構え、国民への注意喚起であろう。軍事忌避からの脱却を急げとの喚起である。「サラミ戦法」とは、

# B級戦犯T先生

編集人 新川 貞敏

元総理など満洲人脈の政財界人が多数香典を贈っていた。また遺児の養育費協賛奉加帳にも前記の人達が名前を連ねている。(佐野慎一著「阿片王」)

南京大虐殺はウソ

さて昭和18年の学徒出陣で召集されたT中尉は、敗戦と同時にB級戦犯として逮捕される。B級の定義?は戦時国際法に於ける交戦法規違反、つまり部隊指揮官であった者が該当する。中尉と言えは小隊長クラスの指揮官だが、T中尉は語学将校であり司令部付きの連絡将校で、戦闘部隊を指揮した事はない。前述のスパイ学校と見做されている。連捕された人達は3万6千人とも謂れ、その内の約千名が銃殺刑に処された。理不尽な事後法であり、杜撰な伝聞調査、虚偽の証言、通訳不在などで無実の罪を背負わされたデータが同胞は從容と禍(まが)つ神の裁きに服した。

## 編集

## 後記

袁原教授の論考は、日本人としての精神を持っている者には無然然考を強いられる。かつてアチソン・ライン(米國務長官アチソンの構想)は朝鮮半島、インドシナ半島を放棄してアリュウシヤン列島から日本、沖縄、フィリピンを結ぶ米国の防衛ラインである。蒋介石の台湾も除かれている。この構想の背景は昭和25年6月、国境化していた38度線を越えてソウルを電撃した共産主義の脅威に對しての米国の反応である。トルーマン・ドクトリン(共産主義封じ込め)、マーシャル・プラン(欧州復興支援策)などを推進したアチソンの構想は今、現実味を帯びているのではないか。それは米国の韓国放棄説である。

袁原教授の北朝鮮問題の解決は、戦争を避けるために、北の核を容認して朝鮮半島の政権選択を中国に任せる、と言う米国の決断があれば解決する、との説。この場合日本が最前線になり、核を持つ朝鮮半島が出現する。これは我が国にとって悪夢のような話である。小林路義氏の講演は言うなれば「常在戦場」の心構え、国民への注意喚起であろう。軍事忌避からの脱却を急げとの喚起である。「サラミ戦法」とは、

袁原教授の論考は、日本人としての精神を持っている者には無然然考を強いられる。かつてアチソン・ライン(米國務長官アチソンの構想)は朝鮮半島、インドシナ半島を放棄してアリュウシヤン列島から日本、沖縄、フィリピンを結ぶ米国の防衛ラインである。蒋介石の台湾も除かれている。この構想の背景は昭和25年6月、国境化していた38度線を越えてソウルを電撃した共産主義の脅威に對しての米国の反応である。トルーマン・ドクトリン(共産主義封じ込め)、マーシャル・プラン(欧州復興支援策)などを推進したアチソンの構想は今、現実味を帯びているのではないか。それは米国の韓国放棄説である。

袁原教授の北朝鮮問題の解決は、戦争を避けるために、北の核を容認して朝鮮半島の政権選択を中国に任せる、と言う米国の決断があれば解決する、との説。この場合日本が最前線になり、核を持つ朝鮮半島が出現する。これは我が国にとって悪夢のような話である。小林路義氏の講演は言うなれば「常在戦場」の心構え、国民への注意喚起であろう。軍事忌避からの脱却を急げとの喚起である。「サラミ戦法」とは、

袁原教授の論考は、日本人としての精神を持っている者には無然然考を強いられる。かつてアチソン・ライン(米國務長官アチソンの構想)は朝鮮半島、インドシナ半島を放棄してアリュウシヤン列島から日本、沖縄、フィリピンを結ぶ米国の防衛ラインである。蒋介石の台湾も除かれている。この構想の背景は昭和25年6月、国境化していた38度線を越えてソウルを電撃した共産主義の脅威に對しての米国の反応である。トルーマン・ドクトリン(共産主義封じ込め)、マーシャル・プラン(欧州復興支援策)などを推進したアチソンの構想は今、現実味を帯びているのではないか。それは米国の韓国放棄説である。

袁原教授の北朝鮮問題の解決は、戦争を避けるために、北の核を容認して朝鮮半島の政権選択を中国に任せる、と言う米国の決断があれば解決する、との説。この場合日本が最前線になり、核を持つ朝鮮半島が出現する。これは我が国にとって悪夢のような話である。小林路義氏の講演は言うなれば「常在戦場」の心構え、国民への注意喚起であろう。軍事忌避からの脱却を急げとの喚起である。「サラミ戦法」とは、

袁原教授の北朝鮮問題の解決は、戦争を避けるために、北の核を容認して朝鮮半島の政権選択を中国に任せる、と言う米国の決断があれば解決する、との説。この場合日本が最前線になり、核を持つ朝鮮半島が出現する。これは我が国にとって悪夢のような話である。小林路義氏の講演は言うなれば「常在戦場」の心構え、国民への注意喚起であろう。軍事忌避からの脱却を急げとの喚起である。「サラミ戦法」とは、



鶴見緑地公園BBQ会場 (7月30日)

**【予告】**  
**関防会創立20周年船上祝賀パーティ**  
 平成30年4月22日(日)  
 19時半出港(約2時間)  
 神戸コンツェルトナイトクルーズ  
 〒650-0044  
 神戸市中央区東川崎1-6-1  
 電話:078-360-5600  
 夜景と音楽とお食事とお酒をお楽しみください。  
 チケット12,000円  
 男女カップルチケット20,000円  
 詳細・申し込みは次号にて

**御入会の御願い**

関西防衛を支える会では会員募集中です御入会希望の方は下記口座にお振り込み下さい会員となります

三井住友銀行守口支店  
 普通口座 1261314  
 口座名 関西防衛を支える会  
 郵便振り込み  
 口座番号 00960-2-137035  
 口座名 関西防衛を支える会

一般会員	年会費	3000円
維持会員	々	10000円
法人会員	々	20000円

ホームページからの申し込みも可能です。  
<http://kanboukai.jp/>

\*1口以上何口でも申し受けます。  
**銀行振り込みの場合は小会まで**  
**住所など御連絡下さるようお願いいたします。**

(又は振込用紙に電話番号を記入して下さい)

\*会計年度は4/1~3/31です

前略、「去る7月30日鶴見緑地暑気払いBBQは、天候にも恵まれ、時間いっぱい、盛り上がり、楽しい暑気払い行事となった。自衛隊家族会京橋地区の主催であったが、総勢34人の内、関西防衛を支える会は、高橋忠義・大道欣孝両副会長はじめ15人が参加。自衛隊京橋集案内所、前田所長から、日頃の募集業務への協力に感謝の挨拶があり、高橋副会長の、我が国を取り巻く防衛情勢の厳しき、関西防衛を支える会の活動の紹介と賛同を求める、メの挨拶とともに終了した。」

ご参加の皆さん、ご苦労様でした。  
 八月一日 赤阪昇三記